

○事業所名	ワイズ株式会社 ゆーもあstudio		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		2025年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	清潔かつ年齢やその活動内容に応じた生活空間の提供。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の各部屋をフル活用し、異年齢交流も年齢に応じた部屋分け両方が可能な状態となっている。</li> <li>必要な個所に防犯カメラを設置し、利用者指導員お互いを守るための工夫を導入している。</li> <li>環境整備に力を入れており、日々の掃除を徹底して行っている。また物の住所も視覚的にわかりやすいよう配置しており、子供たちが片付けをしやすいよう工夫をしている。</li> <li>自立を見据えたコミュニケーションツールとしての基盤修得、また興味関心の幅を広げるためにも貸し出しのノートパソコンを配備、子供たちに適宜貸し出し活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今活用できている活動空間により有意義に、利用者からのニーズの高い用途を検討、抽出し、より柔軟に活用できるような環境の再設定を図る（クールダウンできる部屋の更なる整備）</li> <li>過ごせる場所が多い分、目が行き届かない状況を想定し、子ども達の倫理意識を高める為の指導や、外部指導者来所の機会や非常勤職員、人員配置を更に厚くしていく事等でより良い支援に取り組めるよう検討をしていく。</li> </ul>
2	経験豊富な有資格スタッフが常勤配備されている充実した事業所体制。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会を定期的開催し、児童に合った進路指導を行える体制を整えている。</li> <li>活動プログラムも季節や学校行事に合わせ検討し、子供たちの興味関心の幅を広げる工夫を凝らしている。</li> <li>常勤スタッフを1日4名以上配置しており、曜日によって非常勤スタッフも置かれているので職員側も分業しながら支援に取り組め、子供たちも相談したり一緒に過ごす職員を選ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの自立に向け、長期的な視点を持った支援を導入し、点が線になるような活動プログラムを適宜検討、実施していく。</li> <li>プログラム内容の検討に子供たちの意見を積極的に取り入れ、自主性の向上に努める。</li> </ul>
3	職員間の円滑なコミュニケーション。	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日の支援活動の動きの共有、子どもたちの日々の様子やヒヤリハットなど、支援前後の話し合いで職員間の共通認識を図っている。常勤職員の配置人数的にもこまめな共有がしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤職員の方とのより詳細な共通認識が図れる機会を設けられるよう努める。</li> <li>コミュニケーションの豊かさをそのままに、たとえば誰もが扱えるようなアセスメントツール、またはそれに類する知識技能を導入、マニュアル化しより専門的に支援を行えるよう試みる。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連絡ツール電子化による課題。（電子ツールに不慣れな保護者への十分な対応や、メール等での意思疎通のズレを防ぐ為の方策等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援連絡ツール（HUG）についての説明がオンライン連絡メインになった事で、十分な説明が行き届かずアプリ使用が苦手な保護者からの問い合わせが多くなった。今後は、電話や対面での対応にも力を入れフォローアップ体制を整える必要がある。</li> <li>メール文面での言葉の解釈や相違を防ぐ為に、定期的な通信や活動連絡を配信しているが、確認する習慣や時間が取れない保護者に対し従来の手紙配布の併用や電話、対面でのフォローアップが課題であると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HUGの活用について、より分かりやすい説明とその提示方法（定期的なHUGアプリ使用説明会）を検討する。</li> <li>保護者会の開催頻度やお知らせ時期を見直す。定期的な見学会の実施を検討するなど、より保護者の方々に事業所の支援内容が伝わるよう工夫する。</li> <li>保護者同士のつながりを要望する声もあるため、例えば保護者見学会の設定など検討し、より保護者の方に密接に関わることができる環境を整える必要がある。</li> </ul>
2	地域交流、地域活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年9月開所ということもあり、地域住民等との交流や地域活動への参加について不十分な面がある。</li> <li>地域資源を職員が十分に把握しきれていないのでその発見と周知を行う必要がある。</li> <li>限られた支援時間の中でどのように実践すべきかを検討しきれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の探索と適切な導入の検討を行う。</li> <li>地域行事に事業所としてどのように参画していくか、その在り方を模索する。</li> <li>基幹相談支援事業所等との情報交換を積極的に行い、地域特性に合わせた交流や活動参加について考えていく。</li> </ul>
3	関係各所との情報共有の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援事業所・学校等との連携は面会の機会により比較的スムーズに行われているが、保護者からのタイムリーな相談内容に対応できているかについては十分とは言えない。</li> <li>セルフプラン利用者に児童発達支援・放課後等デイサービス事業所としてどこまで関わる事ができるのか模索している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の方々からの意見を確認し、外部機関との情報共有にどのようなニーズがあるのかを把握していくところから始め、必要に応じて外部機関との情報共有を図るフォーマットの作成を検討する。</li> <li>職員が、広く就労支援移行事業所への見学やその他研修への参加を行い、事業所全体で関係機関連携への見識を深めていく。</li> </ul>